

平成 2 8 年

第 2 回仙北市議会定例会  
教 育 行 政 方 針

仙北市教育委員会

平成 2 8 年 2 月 2 3 日

平成28年第2回仙北市議会定例会の開会にあたり、平成28年度の教育行政方針を申し上げます。

はじめに、学校教育については、平成27年度に引き続き学習指導要領の趣旨を生かし、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を身に付けた子どもの育成を目指して参ります。

特に、「ふるさとを愛し、豊かな心と健やかな体をもち、確かな学力を身に付けた仙北の子ども」の育成を小・中学校共通の目標として掲げて参ります。

また、当市の豊かな自然、歴史的な遺産や偉人、貴重な文化財や人的資源を生かしながら、ふるさとを愛し、誇りに思う心の育成を基盤として、豊かな心と確かな学力を身に付けた子どもの育成を目指します。

特に、地域に伝わる伝統的な行事や祭典については、学校教育の場でも、児童生徒が正しく受け継いでいこうとする態度を育成して参ります。

市立小学校・中学校の適正規模・適正配置については、保護者や地域の方々のご意見、ご意向等を伺うためのアンケート実施に係る予算をお願いしているところでございます。また、学校の適正規模・適正配置について、研究・検討を行うための委員会を設置し、市民の皆様の声を幅広くお聞きした上で、今後の方針等を策定して参りたいと思います。

平成28年4月1日に開校する大曲支援学校せんぼく校については、県教育委員会等と連携を図りながら、最大限の支援と協力に努め、市内の小・中学校の特別支援教育の一層の充実のためにも更なる連携と協力を推進して参ります。

次に、各課について申し上げます。

## 【教育総務課】

子どもたちが一日の大半を過ごす学校は、学習や生活の場であり、豊かな人間性を育む教育環境として重要な施設であります。また、災害時には緊急避難所など、地域の防災拠点としての役割も担っております。子どもたちが快適に過ごすことができる学習環境の提供と、災害時の利用も考慮した各施設の諸工事や維持修繕事業等を、必要性や緊急性を勘案しながら計画的に進めて参ります。

また、昨年度から実施しております小・中学校の屋内体育館等の天井等落下防止対策工事は、小学校3校（中川、生保内、西明寺）と中学校2校（神代、桧木内）を実施することにより、市内全ての小・中学校の工事が完了いたします。地震や台風などによる震動、衝撃によって、天井が脱落しないよう補強し、施設の安全対策を進めて参ります。

さらに、遠距離通学児童生徒の利便性と、登下校時の安全で安心な通学環境を確保するため、引き続きスクールバスの定期的運行を実施して参ります。

## 【教育指導課】

児童生徒の生命・身体の安全と心の健康の確保を最優先事項とし、命を守るための防災・安全教育の充実、いじめ・不登校対策、体罰の絶無、学力向上に重点的に取り組み、学校教育の一層の充実に努めて参ります。

特に、いじめ・不登校問題、ネットトラブル等の情報モラルを含む生徒指導上の諸問題については、「仙北市いじめ防止等のための基本方針」のもと、学校及び関係機関・専門家等との連携協力を一層推進し、その施策の充実を図って参ります。

また、児童生徒の心の悩みや不安に対しては、学校体制での未然防止、早期発見・早期対応に努め、子どもや保護者、市民の皆様からの相談に応じる体制の強化など、その予防と解決に取り組んで参ります。

学力向上につきましては、4月に実施される全国学力・学習状況

調査、12月に実施される県の学習状況調査を活用し、これからの児童生徒に求められる思考力・判断力・表現力に係る市内小・中学校の課題を明確にして、その克服に努めて参ります。

特に、平成28年度は、11月11日に角館小学校において、国立教育政策研究所指定、教育課程指定校事業、小学校・特別活動の公開研究会が行われます。児童の自主・自立と自尊感情の育成をテーマに行われるこの研究会は、全国的に見ても先進的な実践と研究であり、県内外への成果の発信と市内小・中学校への波及が期待されるところであります。

#### ◇新入学児童・生徒数と複式学級の状況について

平成28年度の小・中学校の新入学児童生徒数につきましては、小学校が168人（前年度比25人減）、中学校が208人（前年度比17人増）が予定されております。

中川小学校では、平成27年度に引き続き、複式学級が発生する予定であります。また、桧木内小学校でも複式学級が発生し、これらについては、市費の複式学級指導支援員を配置し、複式授業の解消に努めて参ります。

#### 【北浦教育文化研究所】

秋田県教育庁南教育事務所並びに仙北出張所の指導主事と連携しながら、市内小・中学校の児童生徒の学力向上に向けた授業改善と教職員の資質向上に対応した指導・助言を進めて参ります。市内の小・中学校を訪問して行う授業参観と、授業研究会における指導・助言のほか、仙北市内の教職員による各種研修会を開催し、仙北市の小・中学校の教育目標の具現に努めて参ります。

また、不登校児童生徒の教室復帰に向けての支援を行う、適応指導教室として「さくら教室」を運営し、2人の指導員を中心に、不登校児童生徒への対応や対策、相談活動の充実、併せて市民や児童生徒、保護者からのいじめ事案等の相談体制も充実させて参ります。

新たに「ドローン学習研究事業」を立ち上げ、「『ドローンを用いたロボットプログラミング学習』研究推進指定校事業」を開始いたしました。

この事業は、ドローンを用いたロボットプログラミング学習を中核とした、小学校における先進的な取り組みを推進し、本市の児童の科学的思考力・判断力や科学的実践力の向上を図るとともに、その成果等を国内外に発信することを目的にしたものであります。

今後は、児童のアイデアをもとにしたドローンの活用方法も探りながら、最先端の科学技術との触れ合いを通して、将来への夢を育む機会とさせていきたいと思っております。

また、小学校外国語活動の授業充実のため、引き続き小学校外国語活動指導助手1人を配置し、児童の国際理解と外国語への関心を高める授業を推進して参ります。

さらに、毎月発行している教育委員会だよりを引き続き発行し、市内小・中学校、公民館等の特色ある取り組みを中心に、広く市民に周知して参ります。

### 【学校給食センター】

学校給食は、学校給食法に基づいた学校教育の一環として位置づけ、児童生徒の心身の健全な発達を図ることを目的に、学校と給食センターの連携を密にしながら実施して参ります。

児童生徒の偏食の矯正、食事マナー、食文化等に関する知識の向上を図るとともに、「家庭とともに歩む学校給食」を目指します。

主食の米飯給食は、全て仙北市産のあきたこまちを提供しておりますが、副食材料についても地場産物や郷土料理などを取り入れ、児童生徒が郷土の自然や文化を大切にすることを育むよう、「地域と結ぶ学校給食」の推進に努めます。

児童生徒が季節行事に関心を持ち、四季の移ろいを体験してもらうため、年間5回の季節行事給食を行います。また、小・中学校の最高学年を対象に様々な食品をバランスよく選定し、自分の摂取量を知

り、他人のことを思いやる心が育つよう、バイキング給食を実施し、「思い出に残る学校給食」を提供して参ります。

食物アレルギーを持っている児童生徒も、安心して楽しい給食時間が過ごせるよう家庭、学校、給食センター、関係機関と連携を図りながら対応に努めて参ります。

また、施設及び設備の整備と衛生管理に万全を尽くし、安全で安心な学校給食の提供に努めて参ります。

なお、総合学校給食センターにつきましては、総合給食センター建設に向けた調査、検討を実施し、今後の学校給食センターのあり方を研究して参りたいと思います。

### 【生涯学習課】

平成25年度から29年度まで実施の「第2次仙北市社会教育中期計画」は、後半年度に入り基本目標の達成に向け、社会教育委員をはじめ、関係機関と連携を深めながら取り組んで参ります。

花いっぱい運動推進事業の一環として開催している「花のある街づくりコンクール」は、花を活かした豊かで潤いのある街づくりを目指しており、今年度3回目を迎えます。より充実した花壇コンクールにするため、応募要項や実施時期、審査方法等を見直し、広く市民や企業の皆様が応募しやすい環境を整えながら開催して参ります。

また、国道105号のフラワーロードは、仙北市の風物詩となっており、当地を訪れる方々からも大変好評をいただいていることから、市民の皆様のご協力をいただきながら、引き続き一斉植栽を実施して参ります。

せんぼくアートプロジェクト推進事業は、市内で芸術文化活動を行う団体等の活性化を図るとともに、創作活動や発表・展示等のイベントを支援することにより、地域の魅力発信や継続的な賑わいを創出するものであることから、更なる利用促進に向けた制度の周知に努めて参ります。

## 【公民館】

公民館については、地域住民の日常生活に最も身近な社会教育の中核施設として、誰でも自由に学習できる機会を均等に提供する役割が求められています。田沢湖・角館・西木の3公民館では、地区を越えた学習参加と市民交流の活性化を重点目標として取り組んで参りました。その結果、受講参加者も年々着実に増加しております。

今後も、公民館活動の一本化を進めながら、中央公民館構想について、関係機関と連携を図りながら協議、検討を重ねて参ります。

新年度の事業については、各地区公民館の特色を生かした事業を継続しながら、仙北市の「ふるさとの古」を学ぶ、ふるさと学習の推進、並びにインバウンドへの取り組みとして、市内3地区で、英語、韓国語、中国語などの外国語教室を開催いたします。

また、保育園、幼稚園、学校との連携をとりながら、家庭教育学級や少年教室、地域学習などを展開し、年代を超えた学習交流の場を創出します。

人材バンク制度については、人生の様々な場面で培ってきた経験や特技・学識・能力を持つ人や、ボランティア活動を志す人たちの人材登録を充実させ、市民がいつでも活用できるよう「知の循環型システム」の構築を目指します。

平成28年度も、市民一人ひとりが自己の人格を磨き、生きがいを持って豊かな人生を送れるよう、「地域」、「人」、「文化」、「歴史」、「自然」を一体とする、仙北市ならではの特色ある事業を積極的に展開して参ります。

## 【市民会館】

平成27年度は、仙北市市制10周年記念事業の会場となったほか、関連事業の会場としても大いにご利用いただきました。また、当館を会場とするイベントは、例年開催されている団体に加え、新たな団体の利用も増えております。

施設、設備については、バック幕の更新により、大黒幕としての

使用が可能となり、トラブルが頻発していた舞台連絡用のインカムシステムをデジタル化しております。

空調や吊物の設備については、老朽化が著しいことから、順次改修を進め、施設を訪れる全ての方々に、安全かつ快適に利用していただけるよう、適切な管理と改修に取り組んで参ります。

また、好評を得ております自衛隊音楽隊コンサートやロビーコンサート等を引き続き開催するとともに、市民の活発な文化活動を促し、市民誰もが気軽に足を運んでくれる会館となるよう、創意工夫に努めて参ります。

### 【田沢湖図書館】

施設、設備につきましては、場所によって老朽化が否めないため、日常的に適切な維持管理を行い、来館される方々が安全かつ快適に利用できる空間づくりに、継続的に取り組んで参ります。

図書館サービスの重要な要素である蔵書につきましては、日々整備を行い、利用者のニーズを踏まえた選書はもとより、公立図書館としての役割を十分に果たせるよう努力して参ります。

事業運営につきましては、従来から行っております「おはなし玉手箱」、「朗読コンサート」、「クリスマスコンサート」等の更なる工夫と充実を図り、各年代層に楽しんでいただけるよう開催して参ります。

また、読書普及のためのテーマ展示も、多彩な内容で本の紹介を行い、貸出数や人数の増加を図ることはもちろんですが、本に親しみ、図書館に足を運んでいただくことも大切な要素として、力を注いで参ります。

地域の図書館として、何よりも市民の皆様が学習の場や憩いの場として、気軽に利用していただける図書館づくりに取り組んで参ります。

### 【学習資料館・イベント交流館】

学習資料館では、多くの市民が豊かで楽しい読書生活を送ること

ができるよう、蔵書の充実を図り、特集コーナーの設置やテーマ展示などの企画を実施して参ります。また、昨年度に引き続き、2人の学校図書館支援員を市内小・中学校12校に定期的に派遣し、図書データの入力・発注・装備、書架整理、テーマ展示など、学校図書館の環境整備の充実を図ります。また、全ての学校に構築されている、学校図書管理システムと学校公共間連携横断検索システムの有効活用を図るとともに、学校図書館の蔵書冊数の増加を含めた子ども読書活動を推進して参ります。

イベント交流館では、平成28年度企画展として、「新潮社創立120周年記念 新潮文庫のひみつ展」と「生誕100周年記念 富木友治展」、収蔵品展として「高井有一展」を開催し、多くの方々に来館していただけるよう、展示内容の充実に努めて参ります。

### 【スポーツ振興課】

田沢湖生保内の武蔵野地区への、総合体育館などのスポーツ施設建設について、市民の皆様による調査検討委員会を立ち上げ、その整備方針について、ご意見をいただきたいと考えております。

仙北市体育施設マスタープランには、総合体育館やテニスコートなどの施設整備が計画されており、既存施設の利活用と合わせて検討を進めて参ります。

平成28年度のチャレンジデーは、5月25日（水）に開催される予定で、仙北市としては、6回目の挑戦となります。昨年の参加率は、51.1%と初めて50%台となりました。徐々にではありますが、市民の皆様の活動も広がってきており、対戦相手に勝利するという目標のもと、この結果を普段からの運動に結び付けられるよう努めて参ります。

2017年2月に、たざわ湖スキー場で3回目となるフリースタイルスキーのワールドカップを開催いたします。

2018年開催の韓国平昌（ピョンチャン）や、その次の中国北京で開催される冬季オリンピックを契機とし、台湾・韓国・中国など

アジアをはじめとした、世界のスキー愛好者に、ワールドカップ開催地としての秋田県たざわ湖スキー場を、積極的にPRして参ります。

また、これまでカナダや日本チームによる合宿が行われていますが、より多くの皆様に合宿地として紹介していきたいと思えます。

総合型地域スポーツクラブについて、神代地区の総合型スポーツクラブが2年目を迎えます。昨年から事務員を雇用し、クラブ経営の考え方を持って、マネージャーとともに活動しており、地域住民に対するスポーツ環境の提供と合わせ、自主財源の確保も目指すこととしております。

「桧木内てくてく倶楽部」は4年目を迎え、引き続き桧木内地区のスポーツ事業の展開の充実を図ることとしています。

また、独自に活動を行っている「角館総合型地域スポーツクラブ」や「きたうらアクアスポーツクラブ」、「たざわこスポーツクラブ」などと、情報交換や連携を図りながら、市民の皆様に運動の機会を数多く提供して参ります。

9月18日に開催予定の田沢湖マラソンは、31回目を迎えます。昨年の大会は、過去最高の参加者で、事前エントリーが6千2百人を超える申し込みをいただきました。今年も3連休中の開催となることから、昨年以上の参加が想定されます。下高野駐車場や生保内武蔵野地区駐車場等への誘導體制を充実させて、ランナーの皆様をお迎えしたいと考えております。

各種スポーツ活動の推進については、本年度も、仙北市体育協会や仙北市スポーツ少年団本部の活動をとおして、小・中・高生から社会人までのスポーツ活動を応援します。

また、これまで検討を重ねてきました、9月開催予定の「秋田内陸リゾートカップ100キロチャレンジマラソン大会」には、秋田県と連携して更なる支援を実施し、参加者の皆様に歓迎したいと思えます。

「秋田25市町村対抗駅伝ふるさとあきたラン！」は、大館市を会場に実施されます。今年には選手の体調を考え、前日から現地入りすることとし、これまで以上の成績を目指したいと考えております。

こうした施策を展開しながら、できるだけ多くの市民にスポーツの良さを味わっていただけるスポーツの振興を推進して参ります。

### 【文化財課】

昨年から伝建群内の石黒家・青柳家を中心に工事を行っております国庫補助事業の伝建群保存地区防災施設設置事業は二年目を迎え、Bブロックの岩橋家周辺の整備を行います。

秋田藩角館郷校「弘道書院」復元については、昨年の調査・発掘作業で、明治30年代の旧角館小学校跡の基礎部分である礎石に続いて、明治18年に増築された柱跡と思われるものも出土し、大きな成果があったと認識しています。今後の作業といたしましては、今回出土した遺構や遺物資料を報告書にまとめ、併せて復元に向けた取り組みを実施計画へ盛り込むため、検討委員の皆様などからいただいた、ご意見やご提言を最終的にまとめて参ります。

青柳家の主屋については、老朽化や風雨、融雪などにより基盤の浸食が見られ、通し柱が傾斜している部分が見当たることから、これらを修復する工事を実施いたします。また、河原田家も全体的な老朽化による痛みが目立ち始め、今回は事業を進めて行く方法を検討するための実施設計を起工し、年次計画にまとめる作業を行います。

伝統的建造物群保存地区については、昭和50年の文化財保護法改正により、昭和51年9月に第1号選定地区の角館町、南木曾町妻籠宿、白川村荻町などの5市町村7地区が選定されています。その後、昭和54年には、13市町村が加わり、全国伝統的建造物群保存地区協議会が発足し、現在、同地区協議会に110地区が加盟しております。本年は、その創設40周年にあたります。

この間、町並みを守る会を始めとした、多数の地元住民の皆様にかかわっていただき、歴史的文化遺産である町並みの保存や継承に努めて参りました。

今後も、これらの保存・継承に努め、過去からの贈り物をしっかりと後世につなげるための努力を傾注して参ります。

仙北市の花「サクラ」については、引き続き名勝指定の桜木内川堤等の適正な管理について、関係部課と連携しながら積極的に取り組みます。

市内を散策しながら史跡や歴史を学ぶ「史跡めぐり」は、市民の人気が高く、参加者も年々増加しています。本年度も、歴史の理解や、その大切さをより深く知っていただくため、様々な工夫や視点を変えながら実施して参ります。

### 【角館町平福記念美術館】

平福記念美術館における平成28年度の企画展示計画としまして、4月中旬から5月にかけて、「さくら・内藤忠行写真展」と題した写真家・内藤忠行氏による桜を題材にした写真展を、6月から7月には、日本美術院で活躍されている伊藤彰耳先生と絵の仲間による日本画展「はんぽの会日本画展」を予定しております。

さらに、8月から9月下旬にかけて、百穂の弟子で今年没後80年にあたる日本画家・草薙興宗（旧中仙町豊川出身）の日本画展「没後80年 草薙興宗展」を開催する予定です。

10月から11月にかけて、仙北市角館町在住の作家で商業用のデザインや雑誌の表紙絵等を多数手掛けている佐藤待子氏の作品展「佐藤待子作品展（仮）」を予定しております。

12月から平成29年4月初旬にかけては、毎年恒例の「児童生徒県南美術展」、「仙北市総合美術展」、「館蔵品・寄託品展」の開催を予定しております。

美術館におきましては、今後もより多くの方々から、気軽に芸術作品を鑑賞していただけるよう創意工夫に努めて参ります。

以上、平成28年度の教育行政の基本方針及び主要な施策の概要について申し上げましたが、本定例会に提案しております教育関係議案につきまして、慎重ご審議のうえ、ご可決賜りますようお願い申し上げます、教育行政方針といたします。